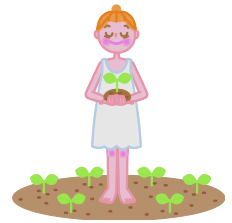


# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2009年9月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

## 家庭教育はすべての教育の出発点

「子どもを育てる」とは、どういうことなのでしょう。

子どもの「生きる力」を育むために、大人はどのような関わりをしたらいいのでしょうか。

この通信では、家庭教育に関するちょっといい話や事業の紹介、講座に参加いただいた皆さんの声などをお伝えしていきます。

人格形成における基本は「家庭」にあります。「子どもを育てる」ということ、親としての心構えや家庭の大切さについて、考えていきたいと思っています。

## 「子どもの豊かな感性を見逃してはいけない」

能代市社会教育指導員 高畑 勉

小学1年生の隆夫はとても活発な子だったが、周りの子どもたちとはかなり違っていた。

授業参観日のこと。新任の先生が、笠地蔵の話を取り上げた。「おじいさんは、吹雪の日にお地蔵さんに笠をかぶせてあげました。するとお地蔵さんは、おじいさんになんと言ったのでしょうか？」

子どもたちはみんな「はい、はい」と言って元気に手を挙げた。先生が隆夫を指名すると、彼は「もっときつくしばってください」と答えた。その隆夫の答えに対して、先生は一瞬沈黙しただけで、そのあとは何もなかったように別の子を指名した。その子が『ありがとう』と言いました」と答えると、先生は「はい、そうですね。みなさん、拍手」と笑顔で言い、結局、隆夫の答えは先生から完全に無視された形になった。

隆夫のイメージでは、吹雪で風が強いので、きつく縛ってもらわなければ、せっかくかぶせても笠が飛んでしまうと考えていた。しかし、若い先生の頭の中には、「ありがとう」という答えしかなかったのだ。

数日後の図工の時間、子どもたちは自分の好きな絵を描くことになった。隆夫は空を飛んでいるカラスを描いた。先生は、子どもたちの絵を一人ひとり見ながら巡回し、隆夫のそばに来た。「隆夫くん、この赤い鳥は何の鳥？」と質問した。「カラスだよ、先生」と隆夫は答えたのだが、先生はクレヨンを持ち、「隆夫くん、カラスは黒いのよ」と言いながらカラスを黒く塗りつぶした。

隆夫は絵を家に持ち帰り、母親に見せると同時に涙をあふれさせた。もし先生が「隆夫くん、どうしてカラスが赤いのかな？」と質問すれば、「夕方、空を見ていたら、赤いカラスが飛んでいたよ」と答えていただろう。

隆夫は、夕日で赤く映ったカラスを描いていたのだ。

大人の気づきの大事さ、反省、山ほどある。

Only one (オンリーワン) — 子どもの個性を伸ばしてあげてください。



## 「家庭教育支援事業」を実施しています

秋田大学との連携事業です

生涯学習課では、今年度から、関係課、保育所や学校等と連携しながら「家庭教育支援事業」を実施しています。「子どもの生きる力を育む」をテーマとして、保護者の皆さんを対象に「家庭教育関係講座」を行っているほか、次代の親となる中学生・高校生の社会参加活動「みんなでAction!」を推進しています。

### 家庭教育関係講座

学びで得たさまざまな気づきを 日常の子育てに活かしてほしい

苦手な食べ物でも楽しい食事の記憶を広げていくことで、自然に食べることができるようになります。「栄養があるから食べなさい」ではなく、発達を理解したことばかけで、楽しい食卓を心がけてください。

秋田大学教授 長沼 誠子 氏（「おいしさのひみつ」6/30 第四小）



**参加者の声** 食べて「おいしい」と感じることで、そのまま心の栄養にもつながっていくことに改めて気づかされました。家族そろって食卓を囲んで食事をする大切さを感じました。



自分で食べるものは、自分で選ぶことができる力、どこで、だれが、どうやって作っているか想像できる力をつけてほしいです。

あきた企業活性化センター 泉 牧子 氏（「食べものを選ぶチカラ」7/1 常盤小）

**参加者の声** 手間ひまのかからない便利な物ばかりがあふれていますが、子どもたちには、どのようにして野菜ができるのか、魚はどうやってさばくのか、できるだけ一緒に料理をするのも、見せるのも大事なことだと思いました。

### 社会参加活動推進事業「みんなでAction!」

子どもたちの自己肯定感、自主性を育みたい

#### 交通安全呼びかけ運動



能代市連合婦人会ニツ井支部の活動にニツ井中学生が参加

#### 参加者の声

（ニツ井中学生）

町の人達はとてもやさしく、チラシを3枚ももらってくれる人もいました。自転車をとめてまでもらってくれる人もいたので、うれしかったです。また町のことに参加したいです。

#### 子育て支援活動ぬくもり



北地区民生児童委員協議会の活動に北高生が参加

#### 参加者の声

（北高生）

子どもたちの前で本を読むのは初めてで緊張しましたが、とてもいい体験になりました。子どもとふれ合うだけでなく、地域の方々ともふれ合うことができ、よかったです。

### ☆「生きる力」を育むうえで心がけたいこと☆

#### ○家族（親）の愛情・温かな家庭

生涯にわたって心のよりどころとなります

#### ○人との豊かな関わりや五感をつかった多様な体験

社会性や知識・技能、からだの基礎を培います

#### ○子どもの自ら育つ力や主体性を尊重した関わり

社会的自立をうながします



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2010年2月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

## 自己評価の高い子どもにー

今年度、保育所や学校等と連携して実施した家庭教育関係講座では、講師の方々から大変貴重なお話をうかがうことができました。

子どもの「今の姿」を認め、小さなことでもきちっとほめて自信を持たせる。その積み重ねが大事であること。子ども自身にやらせる、まかせる。親にはそれを見守る忍耐が必要であるなどー。

子どもが自分に自信をもち、意欲をもって未来に向かっていけるようにするために、親は、大人は、どのような関わり方をすればいいのでしょうか。

来年度もさまざまなテーマで家庭教育関係講座を実施します。どうぞご参加ください。

## 「泳ぎたい 泳ぎたい 泳ぎたい」

～子どもの心をわかってあげよう～

能代市社会教育指導員 高畑 勉

崇徳小1年生の崇君は、「けのび」ができるようになって水泳が大好きになりました。3時間目の体育の時間になると、朝の着替えはノロノロなのに、サッと水泳パンツをはいて、プールの入口で待っているのです。

すると、朝から心配だった空からポツリとききました。「すぐ晴れる」と気にしないで待っていると、徳子さんが「泳ぎはお休み」と知らせにきました。崇君の目からは雨粒より大きい涙が2つ3つこぼれました。



4時間目の授業中には、窓からプールの方ばかり見ているのです。多宝先生が「しっかり勉強しないとみんなに遅れてしまいますよ」と注意しても教科書に目を向けません。給食の時間には下を向いたまま大好きなカレーを一口も食べようとしません。「食べないとお腹すくよ」と言う多宝先生の言葉にも「…」です。

多宝先生は、何ともできない自分が悲しくなりましたが、ちょうど給食の様子を見にきた保健室の松山先生に話を話しました。松山先生はちょっと考えてから、崇君のそばで低い声で「ムニャムニャ」とお話ししました。すると「はい!」と元気な声を出した崇君はカレーにかぶりつきました。

松山先生は、いったい何と言って崇君を元気にすることができたのでしょうか。徳子さんや多宝先生も「ヒミツの言葉」が知りたくてたまりませんでした。

松山先生は、「明日、雨が降っても先生と一緒に泳ぎましょうね」と言ったのでした。「泳ぎたい!」と叫んでいる崇君の心に応えているのです。勉強だの給食だのと多宝先生が自分の方に気を向かせようとしても、水泳と関係ない言葉なので、ますます崇君の心をこじらせるだけです。心に応える声が必要なのです。そうでないと、自分たちの方に心を向けようとしても「ゴンボホリ」の状態は、一步も動きません。

子どもの心に希望がわくように働きかけると、子どもは自分らしさを取り戻します。

(崇徳小学校での講話より)



## 能代市家庭教育支援事業

秋田大学との連携事業です

生涯学習課では、「子どもの生きる力を育む」をテーマに、保護者や地域の方々が、子どもの自立に向けた子育ての視点や具体的な関わり方について学べる機会として、家庭教育関係講座を実施しています。

### 家庭教育関係講座

学びで得たさまざまな気づきを日常の子育てに活かしてほしい

6歳から10歳くらいまでを「中間反抗期・口答え期」という。大人がオツと思うような悪いことばをつかう。悪いことばをつかえないと友達関係をしっかり構築できない。ダメなことばづかいはダメと教えないといけないが、裏から考えると、しっかりした発達の中に入っていったといえる。

児童文化研究家 金田昭三氏（『小学校就学前後の子育て』1/22 向能代小）



**参加者の声** 兄弟そろって今まさにギャングエイジ。家族の会話でも「どこから覚えてきた言葉なんだろう」と出てきます。でも、それが健全な成長とわかり、ホッとしました。



小学校、中学校への入学や就職など人生には節目がある。人生の節々には、ぜひ家族皆で祝ってあげてほしい。今、子どもさんたちは入学を心待ちにしている。その中で「～できないと学校に入れないう」と否定的にではなく、「～できるようになるといいね」と言ってあげるように心がけましょう。

北教育事務所 社会教育アドバイザー 小林礼子氏（『もうすぐ1年生』1/28 浅内小）

**参加者の声** 子どもが入学を楽しみにしている半面、親の方は不安だったり「〇〇ができれば…」という気負いが強かった。講話をきいて、もっと広い心でゆったりと子どもを見つめてあげようという気持ちになってきた。

ある本に、なぜ日本のお母さんたちは子育てに「面倒くさい」という言葉をつかうのだろうとあった。心がすさんでくるとご飯の支度が適当になる。子どもは心がギスギスすると言葉が乱暴になる。命を生み出すのも、一生その子についてまわる人格をつくりあげるのも父、母であり、家庭である。

能代ミュージカルキッズ代表 今立善子氏（『明るく生きること』2/2 第五小）

**参加者の声** じんわりと涙が出てきました。どの家庭にも色々な事情はありますが、そうなったからといって子どもにただつらい思いをさせるのではなく、少し笑い合うだけで、乗り越えていけるものだと感じました。



### ☆ 子どもの「生きる力」を育むうえで心がけたいこと ☆

#### 〇子ども時代の思い出を子育てに役立てる

うれしかったこと、ワクワクしたこと、いやだったこと、くやしかったことなど、子ども時代のいろんな思い出や感覚が、心の奥底に残っていませんか。ときにはそれを掘り起こして、子どもとのよりよい関わりに役立ててみましょう。



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

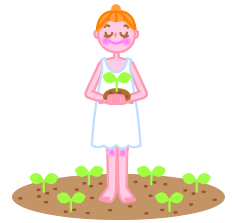
☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2010年7月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

## 子どもの力を信じる

子どもたちが心豊かに育つように、そして、将来、社会でたくましく生きていく力を身につけていくことを願いながら、今年度も家庭教育支援事業を実施していきます。

子どもの自ら育つ力を信じ、“今の姿”を認める。それが子どもの「生きる力」を育むうえでの出発点となります。子どもと「正対する」ということ、「壁」ということについて考えたことがありますか。

### 子どもの「壁」と不登校

能代市社会教育指導員 高畑 勉

A君は小学5年生です。不登校児童です。

彼は、小学校へ入学する前の年に、両親の離婚のため、母の実家へ引っ越してきました。祖父母は、一人娘が帰って来たので、後継ぎまでできた大喜びでした。母は、子どものことは祖父母に任せてカラオケなどを楽しむ日々が続きました。

A君は、良いことと悪いことをきちんと教えてくれた父を慕っていました。母は、こうしたA君の気持ちを考えていませんでした。A君は、すぐ友達もできず、寂しさを紛らわすために祖母に金品をねだり始めたのです。

A君が4年のときの春に、祖父に突然死が訪れました。しかし、葬儀が終わってもA君は学校へ行こうとしませんでした。「○○を買ってくれないと学校へは行かない」と言い出しました。すぐ買い与えたのがいけなかったのです。要求はますますエスカレートします。祖母は、オロオロし、母の言うことは無視され、A君は暴力をふるうようになりました。



担任のB先生は、何度となく家庭訪問をしました。先生は、「学校へ出てこない勉強が遅れる」と母や祖母に話しました。「友達が心配している」とも話しました。効果はありませんでした。先生が来たとき、A君は「聞き耳を立てていた」のです。先生と家族とのやりとり、そして母と祖母の会話も全部聞いていたのです。これまでA君の心を動かすような会話はあったのでしょうか。

A君は、学校へ行きたいのです。しかし、何でも言うことを聞く家族との関係を何とかしないうちは、学校へ行く気にならないのです。「子どもは学校へ行って勉強するもんだ。友だちとケンカしたり仲良くしたりして遊ぶもんだ。」と正対してほしかったのです。物品を与えたり、近所の目を気にして学校へ行かせようとしている家族は、本当に心配したり、愛情を持って接していると言えるでしょうか。

校長先生は、A君には、「やめなさい！こうしなさい！」とビシッと言う「壁（亡くなった祖父）」が必要だと察知しました。自我に目覚めた子どもは、自分の力を確かめようと周りの壁を攻撃し、跳ね返されながら育っていくのです。校長先生は壁の役目を果たしました。子どもは一人ではいかに無力かということを少しずつ教えました。

母や祖母は、離婚した事情を説明し、「慕っていた父親と引き離してすまなかった」「欲しいと言えば何でも買ってやり幼児扱いした」ことなどを心から謝りました。また、大人になったらこの家を頼むとも伝えました。

二学期になりました。A君は、少し恥ずかしそうに廊下を歩き、校長室の前に来ると、チラッと目を向けましたがそのまま素通りしました。

## 家庭教育関係講座

いろいろな人たちの考えを学びながら

自分に合った子育てスタイルを見つけていってほしい

### 「明るく生きること」

能代ミュージカルキッズ代表 今立 善子 氏

ある3人の子どもをもつお母さんはパート3つかけもちで働く。それでも朝ご飯だけはみんなそろって食べたい。必ず「いってらっしゃい」と言ってお学校に送り出したいとがんばった。親ががんばれば、子どもは「がんばる」ということがどういうことか、姿を見て分かるようになる。  
(6/29 淳城西小にて)



#### 参加者の声

「なんで私ばかりこんなに忙しいのかしら」とよく思っていたので、今後はプラス思考、そして、感謝を忘れずに、子どもたちと接したいと思いました。

### 「子育てに思うこと」

沢田 欣之 氏

自分で考え選択することができない子どもが多い。いつもお父さん、お母さんに守られていて、楽なことや楽しいことばかりやっていると、何かあったときすぐパタッと折れてしまう。厳しい社会をたくましく生きていけるように、心を鍛える関わりをしてほしい。

(7/1 常盤小にて)



#### 参加者の声

最後の最後まで、大人も幼い子どもたちをも引きつける内容で、とても楽しく聞かせていただきました。ハッとさせられる言葉に多く出会えました。

## 社会参加活動推進事業「みんなでAction!」

自立をうながす関わりを通して

中高生の社会性や親準備性を育てていきたい

### 「あいさつ運動」

#### 参加者の声 (南中生徒)

今回、地域の人たちとあいさつ運動を行って、とてもうれしく思いました。笑顔でさわやかにあいさつしていたので、僕もこれから気をつけたいです。また機会があったら参加したいです。



榊地区民生児童委員協議会の活動に南中生徒が参加

### 「非行防止街頭キャンペーン」

#### 参加者の声 (工業高生徒)

〇ひとつの事を防止するのに、みんなで取り組むのはいいことだと感じた。また機会があったら参加したい。  
〇ティッシュ配りで、拒否されるのがショックでした。慣れない仕事で大変でした。



青少年育成能代市民会議の活動に高校生が参加

## ☆ 子どもの「生きる力」を育むうえで心がけたいこと ☆

### 〇わが家の子育てルールをつくる

たとえば—

- ・友達や先生の悪口を子どもの前で言わない
- ・夫婦一緒に叱らない(逃げ場をつくる)
- ・きょうだいや友達と比べるようなことは言わない
- ・ひとりで食事をさせない など



乳児は 肌を はなすな  
幼児は 手を はなすな  
少年は 目を はなすな  
青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

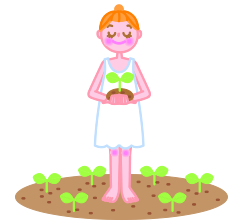
能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp



# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2010年10月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

## “痛み”を感じられる心

「お笑い番組」の影響もあるのでしょうか。相手やその家族を深いところで傷つけていることに気づけない子どもが増えているように感じます。「大切なものを失った人の悲しみ」や「傷ついた人の痛み」を自分のことのように感じ、それを想像することができる心を育てることは、躰の中でもとても重要なことだと思うのです。

### 生まれつきの悩み

能代市社会教育指導員 高畑 勉

『さっちゃんのまほうのて』（偕成社）という本の中に出てくるさっちゃんの右手には、生まれつき5本の指がありません。ある日、このことをお母さんに聞くと、お母さんはさっちゃんの手をやさしくつつみこんで、こう答えました。

「さちこのてはね、しょうがくせいになってもいまのままよ。ずっと、いまのままよ。でもね、さっちゃん。これがさちこのだいじなだいじなてなんだから。おかあさんのだいすきなさちこのかわいいかわいいてなんだから…。」

お父さんは、こうさっちゃんに言いました。

「こうしてさちこてをつないであるいと、とってもふしぎなちからがさちこのてからやってきて、おとうさんのからだいっぱいになるんだ。さちこのてはまるでまほうのてだね。」

さっちゃんは、そんなあたたかい二人の言葉を聞いて、今までさっちゃんをいじめていたお友達にも、自分の手を「まほうのて」だとじまんするようになりました。

その人が生まれたときに、すでに体に備わっているもので、どんなに努力してもどうにもならないことも多く、そのことで悩んだり苦しんだりする人も少なくありません。次のお話も読んでよく考えてください。

ある女の子のほっぺたには、生まれつき赤いあざがありました。なぜできてしまったのか原因が分からないのですが、両親は自分たちのせいだと思いつつ同時に、将来、娘がこのあざのことで思い悩むのではないかと心配しました。でも、ある人がその女の子にしてくれた言葉で、今までの悩みがいっぺんに吹き飛んだそうです。それは、「お母さんとはぐれても迷子にならないようにほっぺたにしるしがついているんだね」という言葉でした。

その両親は、いままであざのことをにくいとまで思い、消すことばかり考えていたのですが、その言葉を聞いて、あざのことは、「世界でたった一つしかない家族の宝物」と思うようになりました。そして、あざも隠さないようになったそうです。

あなたの体は、両親からもらった大切な体です。特にお母さんはあなたがお腹の中にいるときから、「元気で生まれますように」といつも願っていました。待ち望んで生まれてきた子は、すべてがかわいいのです。生まれつきのことでお友達へ嫌がらせをすることは、お友達を傷つけると同時に、その両親の心も傷つけることを覚えておいてください。

それに、日本中、いや世界中に「完全無欠な人」なんていません。



家庭教育関係講座

「発達過程における親子関係～青年期を楽しむために～」

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 准教授 佐々木 久長 氏



「甘やかし」は、親や大人が子どもに甘えていることであり、子どもをダメにする一番確実な方法である。欲しいものがすぐ現実化する体験は、我慢する力を奪う。親子関係で苦しむ家庭をみると、親が子どもの欲求に応えられなくなった時から問題が発生していることが多い。

(9/5 能代市私立幼稚園 PTA 連合会事業にて)

参加者の声

幼児期からの親子関係がしっかり結ばれていれば、成長していく上で大丈夫だということが、今後の子育てをしていくうえで、とても参考になりました。

「発達心理学の視点からみる子どもの世界」

秋田大学教育文化学部発達教育講座 准教授 山名 裕子 氏



乳幼児期に子どもにいろんなことをさせればできることは確かである。しかし、半面、本来経験すべきことを奪ってはいないか、と少し考えてほしい。子育てをあまり急がず、大人の価値観とは異なる「子どもの世界」を見守る配慮が必要である。

(9/10 母子保健に携わる関係者研修会にて)

参加者の声

子どもたちへの関わりで、答えを出して先回りすることが、かえって子どもの育つ力を奪い取ってしまう場合があることなど、たくさん参考になりました。

社会参加活動推進事業「みんなでAction!」

～ 赤ちゃんとお母さんたちの「交流ひろば」に 高校生が参加 ～



▲赤ちゃんを抱っこする高校生(8/3 エナジウムパークにて)

参加者の声 (北高生徒)

- まだ話すことができない赤ちゃんたちと触れ合ってみて、やっぱりかわいいなと思いました。ママさんたちも同じような悩みを抱えていて、お互いに話し合ったりしていたので、大変そうだなと感じました。
- 子どもたちと遊んでいて、私もほしいなあという気持ちが高まりました。親になったら私もこのような活動に積極的に参加して、楽しさや悩みを共有したいです。

☆ 子どもの「生きる力」を育むうえで心がけたいこと ☆

○子どもの発達について理解する

子どもには発達段階によって、さまざまな特徴があります。子どもの心とからだについて「知る」ことで、子育てにおける不安が解消されたり、関わり方やことばのかけ方について、ヒントを得ることができます。



乳児は 肌を はなすな  
 幼児は 手を はなすな  
 少年は 目を はなすな  
 青年は 心を はなすな

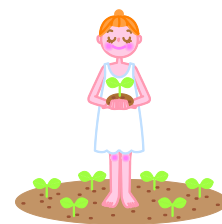
☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp



# Only one



2011年3月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

## 改善しようとする姿勢

子育てに「完璧」はありません。子どもを育てるといことは、とても大変なことです。悩み、迷うことがたくさんあります。大切なのは、「常に改善していこうとする姿勢」ではないでしょうか。最初から「私はこれでやります」という自分勝手な子育てではなく、いろいろな人たちの考えを知り、新たな視点を得たり、「自分はこれでいいんだ」と自信を積み重ねていくことが、「親」になっていくうえでとても大切なことだと考えます。

### 一度はじっくり子どもと話し合いたい「お金」

能代市社会教育指導員 高畑 勉

「おこづかいはどのくらいが適当か」「金額を上げるべきか」「子どもが家のお金を持ち出した」など、子育て中の「お金の悩み」は多い。お金には、「子どもの頃」「親として」悩み、悩まされた。でも、教師として、子どもたちからの集金をするとき、小さな肩に背負いきれない家庭の事情があることを知ったりすると、「お金なんかなければいいのに」と、お金を恨んだこともあった。そんなときに、M先輩が語ってくれた、あるお母さんの子どもを育てる姿勢に胸を熱くしたことを覚えている。

A子は2年生。ある日、お母さんの財布から200円を持ち出して、お菓子を買って食べた。お母さんはそれに気づき、A子に問いただした。A子は、お金を持ち出したこと、お菓子を買って食べたことを話した。お母さんはA子を座らせて、家のお金について話した。「これは、お父さんが働いて会社からもらったお給料、〇〇〇〇円」「これはお米代、〇〇〇〇円」「これはおかず代、〇〇〇〇円」「これは電気代、〇〇〇〇円」「これは…」と、すべて分かるように説明した。最後に「うちには、余分なお金も要らないお金もないのよ」と言った。A子の心に響かないはずはない。涙を流しながら「ごめんなさい」と消え入るような声を振り絞った。

お母さんの偉いところは、M先輩にこのことを包み隠さず話し、教を乞うたことである。母子のやりとりと子育ての姿勢に敬服した。「お金をとったらだめ」「お金は大切に」とはだれでも言う。でも、子どもにしっかり伝わっているかは疑問である。「言う」と「分らせる」とは違う。親には子どもが納得するまで説明する責務がある。

B子は、お母さんの財布から500円を持ち出し、友だちにお菓子を買ってふるまった。お母さんは「どうしてでしょうか。おこづかいは100円ずつ毎日あげているのに」と言った。M先輩が「100円ですか」と言うと、「多いですか」と聞いてきた。

こづかいの額ではなく、B子に必要なことだったかどうかであるとM先輩が教えてくれた。お金は目的があって使うものである。毎日100円を渡され、「お金を使う」ことが目的になってしまった。

もっと判断力がついて計算もでき、お金の大切さを学んだ後に初めて、親は、こづかいが「自分の子どもに必要なか」「与える時期が来たか」と判断するべきではないでしょうか。



家庭教育関係講座

「たくましく心豊かな子どもを育てるために」

講師：日本笑い学会秋田県幹事 人星亭 喜楽 駈朗 師匠

たくましく心豊かな子どもを育てるために  
日本笑い学会秋田県幹事 人星亭 喜楽 駈朗 師匠



子どもには失敗や恥をかく経験をさせること。ちり紙、ハンカチなど全部お母さんが準備していませんか。忘れたとき子どもは「お母さんが忘れたの」と言う。そうではなく、みんなの前で先生に注意されることで、次はちゃんとやろうと思うようになる。失敗しないようにと何でも大人が先回りしてやるから、何かちょっとしたことで失敗したとき、すぐに折れてしまう。(2/8 第五小にて)

＜保護者の声＞

失敗してもあきらめない力、何度もチャレンジできる力、自分で考えて行動できる力、大切だなと思います。子供の力を引き出せるよう、大人のかかわり方がとても重要であることを感じました。手を出し過ぎないように、見守り、時には、一緒に考えたりしていきたいと思いました。

社会参加活動「みんなで Action！」



子育て支援センターの「0歳児ひろば」「ひよこひろば」に参加し、赤ちゃんとふれ合う高校生たち



＜参加した高校生の声＞

- 今までふれ合うことがなかった0歳児の赤ちゃんたちとふれ合うことの楽しさを知ることができました。
- 赤ちゃんにふれて、自分たちが何かをすると喜んでくれたり、とてもうれしかったです。6ヵ月で11kgの赤ちゃんもいて、すごく大きいなと思いました。抱き方とかほめられて、「慣れてるね」と言われ、うれしかったです。
- すごい楽しかったです。お母さんたちからいろんな話を聞いて、いい経験になりました。親同士の話もできて、いい機会だと思いました。

家庭教育に関する本の紹介（市立図書館所蔵）



『親がしてやれることなんて

ほんの少し』

山本ふみこ・著

小学生、高校生、大学生の3人の子どものお母さんが語る、子育てのなかの、ちょっとした大事。疲れた心にも効くエッセイ。

『上の子下の子、

きょうだい子育て』

プチタンファン編集部・著

赤ちゃんがえり、やきもち、平等にかわいがれないなどのきょうだい子育ての悩みに答える。先輩ママの生活の知恵や、きょうだいげんか Q&A も収載。

『子育てマンガ

あたし天使あなた悪魔』

田島みるく・著

いるとうるさい、いないと寂しい。まったく子どもってというのは…。20万人を超すママとパパが読んだ子育て漫画。長男の誕生から2人目出産までのすべてを描く。

☆ 子どもの「生きる力」を育むうえで心がけたいこと ☆

○自己肯定感を育む

子どもは自分の存在や自分らしさを認められることで、心の安定が保たれます。「認める、ほめる」を基本とする子育てが、子どもの生きる力を育みます。



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

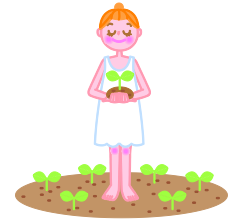
少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp



## 豊かな体験活動が伝えるもの

能代市社会教育指導員 高畑 勉

7月16日、放課後子ども教室週末体験活動に付き添って、檜山梶原園に行き、初めて「茶摘み」の体験をした。茶摘みはもちろん、茶もみの工程など、「驚きの収穫」があった。

最大の収穫は何だろうと考えた。それは間違いなく、檜山茶を守り伝える梶原茂兎悦さんと、能代商業高校の生徒たちに出会えたことである。誇りをもって働き、これまでの苦勞を語る梶原さんの姿は、当然のことながら私の心を大きく揺らした。教わりながら懸命に作業する能商の生徒たちの姿にも……。

体験活動の目的は、「人と人との交流」にこそ、あると思う。仕事の「なりわい（生きる業）」の部分ちゃんと伝えられる人に出会えることにある。

これまでのように、カゴを渡して「自由にリングを収穫してください」というのでは、子どもたちは「農業って、なんて楽な仕事なんだろう」としか思わない。しかし、今回のこの活動に参加した子どもたちは、摘んでも摘んでも袋がいっぱいにならない「一芯二葉」の茶摘みを体験した。辛抱強く続く、途方もない長い時間の茶もみ作業も体験した。「遊びの体験」ではなく、「なりわいの体験」をしたことになる。

私もお茶に関しては全く無知であった。これからお茶を飲むときには、お茶を作っている人たちの大変な苦勞を思いながら味わおう。また、お茶を作っている人たちは、みな光っていた。その光を見た。それを知った私たちは、大人も子どもも、少しは人間の幅が大きくなったような気がする。

現在、ニートが社会問題になっているが、彼らは働くことの意味や喜びを知っているのだろうか？ ……知らないと思う。子どもたちには、小さいころから、働くことの本当の素晴らしさを体験させたいと思う。



【参考】和歌山県 NPO法人 ほんまもん体験倶楽部

### 方針

インストラクターは、絶対に「いらっしゃいませ」という言葉は使わない。本物体験では、ゲストとホストの関係ではなく、あくまで師匠と弟子の関係が基本となる。

### 接し方のルール

- ① 準備や片づけは、参加者にやらせる
- ② 言葉で指導するのは良いが、手伝わない
- ③ 褒めすぎない





能代市家庭教育支援事業では  
こんなことやってマス

4~7月

家庭教育関係講座

秋田大学との連携事業です

講演「なぜ私たちは北風になってしまうのか？」

講師：秋田大学教育文化学部心理学研究室 森 和彦 氏



親が子どもを管理対象としてみる限り、「この子は〇〇してくれない」という否定的なイメージを抱くことになり、それが子どもにも伝わってしまう。子どもは管理対象ではなく、親とは別の自意識をもったひとりの人間である。

親自身の中にもコドモ的な部分があるので、コドモと同じ立場に立ってみて、「コドモにこう言っても通じないなあ」という理解のしかたはできるはず。育児は育自。自分は今、親として育てられているんだと認識することが大切だ。 (6/18 さんさん保育園にて)

＜参加した保護者の声＞

- 思い当たるところがありすぎて、耳の痛い2時間でした……。普段忙しいので、気持ちを改める意味でも、良い時間でした。
- もっと子どもの力を信じ、見守っていきたいと思います。

社会参加活動推進事業「みんなでAction！」

6/25 子育て支援活動「ぬくもり」



＜参加した高校生の声＞

- ふだん小さい子とふれあうことがあんまりないので、楽しかったです。
- 踊り、遊び、工作も、興味をもってやっているなと思いました。みんなしっかりしていたので、とても楽しくやることができました。

7/4 非行防止街頭キャンペーン

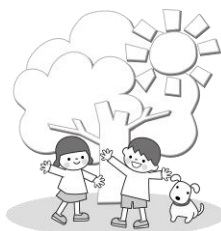


＜参加した高校生の声＞

- こちらから声をかけると、あたたかく笑顔で接してくれる方がたくさんいて、うれしかったです。
- 地域の人たちとふれあうことができて良かったです。

人との豊かな関わりや体験活動が社会性を育む

五感をフルにつかった体験は、人やモノ、自然との関わり方や接し方を学ぶうえで、とても重要です。ものごとに対して興味を持って取り組む姿勢が育ち、社会的視野を広げることにつながります。



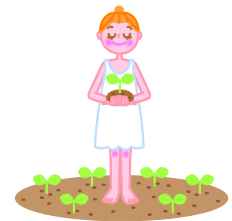
- 乳児は 肌を はなすな
- 幼児は 手を はなすな
- 少年は 目を はなすな
- 青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

# Only one



2011年12月

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～

発行：能代市教育委員会生涯学習課

OnlyOne  
Column

## 子どもの命を輝かせるために

能代市社会教育指導員 高畑 勉

ある中学校の一年生A君は、期待に胸をふくらませて野球部に入った。しかし、友だち関係がうまくいかず中学生生活に馴染めなくなって、自宅にこもってしまった。少しずつ小学生時代の野球仲間と距離が遠くなり始めたので、意を決してグラウンドの隅に行ってみた。それを見つけた監督は、自分のそばに呼んで、「よく来た」「明日も来るんだよ」と言いながら「ノック」を打ってやった。それを羨ましそうに見ていた一年生の部員たちは、家に帰ってから「A君はずるい。学校にも来ないのに監督からノックを打ってもらった。監督はえこひいきしている」と両親に訴えた。翌日からこの問題の対応に監督と校長は苦慮した。A君はまた家にこもった。

A君はなぜ不登校生徒になってしまったのだろうか。

小学生の頃のA君は、「勉強と野球はトップクラス」で落ち込むことなどなかった。つまり、もっと視野を広くし、いつも上には上があることを知る体験が不足していたとも言える。中学校へ行くとA君の上をいく生徒は当然いる。苦しくても冷静に自分を見つめ、その壁を乗り越えていく方法を知らなければ、自分に負けてしまうのは当然のことであろう。

自分を信じて工夫して壁に立ち向かうことを教え、自立する過程を見守るのが家族の大切な役目である。なにしろ途中何回も失敗を繰り返すので「家族の励まし（愛情）」がないと挫折してしまう。結果、成長し自立した自分を発見できるし、「A！成長したな」と家族も認める。

ところで、先頃、朴瀬小学校では「命」の勉強をした。勉強後の一年生から六年生までの感想文には、全員「自分の命は輝いているぞ」と書かれていた。この命、「不登校」などで光を失わせてはならないと思った。また、自分の命を大事に思う気持ちが育っていれば、必ず自分を磨くはずであるとも思った。

お釈迦さまは弟子の阿難に、「人間に生まれたことをどのように思っているか」と尋ねられ、次のようなお話をされている。

《大海中に住み、百年に一度しか浮かび上がってこない目の不自由な亀が、海面に顔を出したときに、流れただよっている浮木の一つしかない穴に首がちょうど入ることがあるか》

当惑している阿難に、このようなことは有ることが難しい。人間として生まれてくることは、このように「有り難い」めったにないことだと教えられた。

子どもの幸せを願わない親はいない。その幸せとは、「子どもの自立」ではないだろうか。そして、それを支え育てるのは、大きく深い家族の愛情だ。「有り難い」光り輝く命が年齢とともにだんだん光を失わないようにするには、現在の生活全体を、将来の「子どもの自立に役立っている」という目線で見直す必要があるとは思いませんか。





能代市家庭教育支援事業では  
こんなことやってマス

8~11月

**家庭教育関係講座**

**「考えよう！ 大切な命とからだの成長」**

講師：助産院イスキア 院長 菅原光子 氏

家庭ではなかなか改まって伝えられない「誕生」「命」というテーマの講座を、子どもを対象に実施しました。自分も、そして周りの友だちも、奇跡のように生まれた大切な命だと感じることができました。

最後にお父さん、お母さんと「命のメッセージカード」のやりとりをして、親子の絆を深めました。

(10/27 朴瀬小学校)

＜参加した子どもの声＞

○生まれる前に亡くなってしまおう子がたくさんいるので、びっくりしました。でも、私は亡くならないで、ここまでこれました。私は、これからも友だちや家族、自分の命を守りたいです。



**社会参加活動推進事業**

**「みんなで Action！」**

**「命の大切さ事業」**

高校生が子育て支援センターの事業をお手伝いしながら、子育て中のお母さんたちに話を聞いています。



**「命を大切にすることを育む教室」**

講師：秋田県動物管理センター 所長 伊藤 稯 氏



失われるペットの命を見守り続ける動物管理センターの活動をうかがいました。

『生に責任をもつことは、可愛いからといって、制限すると可哀想だからといって、ただ甘やかすことではない。』

人間社会で一緒に暮らす以上は、人間社会で長く暮らせるようにしつづける必要がある。』という言葉が、重く、胸に響きました。

「子どもに置き換えると、とても考え深い内容だった」「次は子どもと一緒に聞きたい」という声が聞かれました。

(10/29 能代市山本郡PTA連合会

母親委員会)



＜参加した高校生の声＞

○視線を同じにして微笑みかけると笑ってくれる。ほめると喜ぶ。一緒に遊ぶと、どういう子なのかが分かるようになりました。

○自分も昔はしてもらったこと、また、いつかするかもしれないこと考えると、改めてお母さんってすごいと感じました。

**家族がつながる機会を大切にする**

家族団らんの機会として、誕生日や季節の行事を大事にしましょう。お正月、節分、ひな祭り、子どもの日、お盆、クリスマスなどは、子どもの心がワクワクする行事です。



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

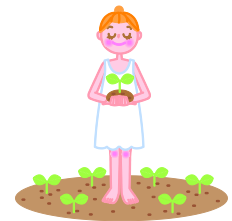
☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp



# Only one



2012年3月

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～

発行：能代市教育委員会生涯学習課

OnlyOne  
Column

## 親原病

能代市社会教育指導員 高畑 勉

子どもは、親の与えてくれた豊かな環境の中で何不自由なく生活していても、自分の好奇心や欲求との「ズレ」を感じる。がまんできなくなると、心にたまったマグマを外に向けて発散する。それが親にとってはメチャクチャに見えても、子どもは「自分で本当にやりたいこと」を見つけようと、小さな「反抗」や「挑戦」を繰り返し、軌道修正をしながら、やがて「自分だけのもの＝熱中できるもの＝Only One」を見つけていくのだ。これを発見するには、良いことも悪いことも含めて、多様な体験が必要だ。なぜなら、誰かに与えられたものではなく、自分で見つけた初めて意味があるものだからだ。

A先生は、最近あるお母さんから「うちのB子はテストでうっかりミスが多いのですが、どうしてでしょうか？」という相談を受けた。そこでA先生は「B子さんは、テストのときだけ、うっかりミスをすると思いますか？」と聞いた。お母さんは困った顔をした。

B子のお母さんは、家では子どものすることに目を光らせ、転ぶ前に手を貸すような育て方をしているということだ。学校へ行く前にも、「教科書は！」「体育着は！」「給食袋は！」などと点検してあげる。そうすると、もちろんミスは起こらないのだが、残念ながらテストの時にお母さんはいない。

子どもは、存在そのものが個性豊かな「Only One」だ。誰しも必ず「自分だけのもの」を持っているが、隠れているので見えない。親の敷いたレールを歩くような生活の中では、見つけられない。いろいろな体験を通して、自分を深く掘り下げないと発見できないのだ。転んだり、小さな傷をつけることもあるが、その傷の痛みは子どもに植え付けられ、二度と失敗をしなくなることだろう。この時期に、親が自分の経験から「危ない」「いけない」「無理よ」……と、親の都合でやめさせると、子どもの成長はない。いわば「親原病」という不幸な病にかかってしまう。

今年度の家庭教育支援事業のキーワードは「自立」である。近年、青少年の社会的問題としてマスコミを賑わせているのは、「いじめ」「不登校」「ひきこもり」「ニート」などである。こうした問題の根底には、「自立」が欠落していないだろうか。

「自立」を支えるものは、「絆」と「体験活動」であろう。これは車の両輪と言っても良い。幼児の頃に親の愛情をたっぷり浴びて、安心感のある居場所を得た子どもは、外に出て試行錯誤をしているうちに、世界を知り、新しい発見をする。そうして、どんどん自分らしさを著し、発揮していき、「こ

の子、こんなことができるの」と周囲から認められるようになると、自分の存在感に気づく。こうしてOnly Oneをもった子どもは、自分を生かせる仕事へと舵を切っていく。





能代市家庭教育支援事業では  
こんなことやっマス

12~3月

## 家庭教育関係講座

### 「動物子育て物語」

～ふれあいで作る親子の絆～

講師：秋田市大森山動物園 園長 小松 守氏

人間も動物も、産子数の少ない種は、親子の絆を基礎にして他者との関わりをつくっていき、それぞれの社会のなかで生き残る知恵や能力、ルールを学んでいく。授乳やふれあうことで育まれる親子の絆は、子ども、その子どもへとつながっていき、生きるうえで大切なことを伝えていく。それこそ「命をつなぐ」ということだ。

(2/18 能代市私立幼稚園PTA連合会事業にて)

<声>

- 今日家に帰ったら、まず2人の子どもにギュッとしたいと思います。
- 自分の親にも愛情を注いでもらっていたことを実感でき、感謝する気持ちになりました。



<声>

- 親としての見直すべきところがあり、反省とともに見方を変えてみようと思った。
- 「我慢」教える前に、自分も「我慢」して生活していきたいです。

### 「挫折する子どもと挫折しない子ども」 講師：能代市社会教育指導員 高畑 勉氏

子どもの幸せとは、最終的に「自立」ではないか。「これは自立に役立っているか」ということを念頭において子育てをしてほしい。

「挫折」に負けないためには、心の器を大きくすることだ。人間関係のチャンネルを増やし、良いところを見つけて褒め、失敗と成功の体験を積ませる。親の都合で躰をしてはいけない。

(1/14 能代市スポーツ少年団育成母集団・保護者研修会にて)



## TOPICS!

能代市教育委員会では  
豊かな体験活動の場を  
子どもたちに提供しています

～ 詳しくはお問い合わせください ～

### ◆◆◆ 小学生対象の事業 ◆◆◆

- 子ども館主催事業 (子ども館 ☎ 52-1277)
- チビっ子公民館 (中央公民館 ☎ 54-8141)
- キッチン・キッズ (働く婦人の家 ☎ 54-8210)
- 夏休み・冬休み体験教室 (二ツ井公民館 ☎ 73-2590)
- 土曜体験教室 (二ツ井公民館 ☎ 73-2590)
- 放課後子ども教室週末体験活動 (生涯学習課 ☎ 73-5285)



### 向き合う時間をつくる

ほんのわずかな時間でも、子どもと向き合う時間をつくるのが大切です。あわただしい日常の中でも子どもが“あったか”を感じられるよう心がけたいものです。



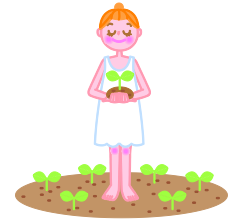
乳児は 肌を はなすな  
幼児は 手を はなすな  
少年は 目を はなすな  
青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

# Only one



2012年8月

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne  
Column

## 父親の愛

能代市社会教育指導員 高畑 勉

F小学校の相撲部員、6年生のH君は、団体戦の大将を務めている。普通大将はチームで一番強い者が務めるが、作戦上、H君がいつも大将で試合に臨む。F小学校とならんで優勝候補のK小学校は、最強の者を大将に据えている。大将戦の前に決着をつけたいのがF小学校、大将戦まで持ち込みたいのがK小学校である。

相撲の神様のいたずらか、3つの大会の優勝決定戦が大將戦に持ち込まれた。H君はそのつど闘志をみなぎらせて挑んでいったが、善戦むなしく3敗してしまった。唇を噛んでうなだれながら引き下がる姿に、応援団は声をかけようがなかった。まして、応援しているH君の父母の胸中は察して余りある。親であれば、「どうしてうちの子どもばかりが、こんな辛い立場になるんだ」と監督に恨みごとのひとつも言いたくなるだろうに、H君の父母は、何も、ひとつも言わなかった。優勝したK小学校は、歓喜、歓喜の大万歳である。F小学校だって、準優勝なら立派な成績と言って良いはずなのに、3回も、となれば……。

大会も終わり、部員の健闘を讃える食事会が開かれた。H君は心なしか元気がない。相撲部親の会会長であるH君の父は、監督のこれまでの指導、親たちの協力などに感謝したあとに、子どもたちの戦いぶりにふれた。的確に部員一人ひとりの活躍ぶりを讃えていったが、その場にいる者たちは、H君のことをいったい何と云うのだろうと少し心配になってきた。その心配も頂点になりかかったとき、父は視線をH君に向け、思い切ったように、「……Hは、お父さんの誇りだ」と言いきった。



たとえチームに迷惑をかけた結果になったとしても、全力で真っ向勝負を挑んだ我が子であれば、親が褒めてやらないでどうする。子どもにまっすぐに向かっていく、この父の比類ない愛情を目の当たりにして、H君の母はもちろん、他の保護者らも顔を上げられなかった。

H君は照れくさそうに笑いながらも、目からは大粒の光るものがこぼれた。それからの食事会ではH君を責める者はなく、むしろ一戦一戦、相手を苦しめていったことへの称賛の声が波紋のように広がっていった。

後日伝え聞いた対戦相手のK小学校の校長は、「あの子を誰がどんな形で慰めているのかと気になっていたが、最高のフォローをしている。相撲をとおして親子がお互いを強く認め合うことができ、本当に良かった。勝つことよりも良かったのでは……」と言った。勝つことが必要以上に求められ、あちこちでギクシャクした問題がささやかれている昨今であるが、この父親のように「子どもを大きく強く育てるんだ」という気持ちをもっていれば、チーム内のトラブルは起こらないと思う。親に愛情をいっぱいもらって育ったH君は、大学卒業後、自分で貯めたお金で自分探しの旅を決行、その後海外へ雄飛している。



## 👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

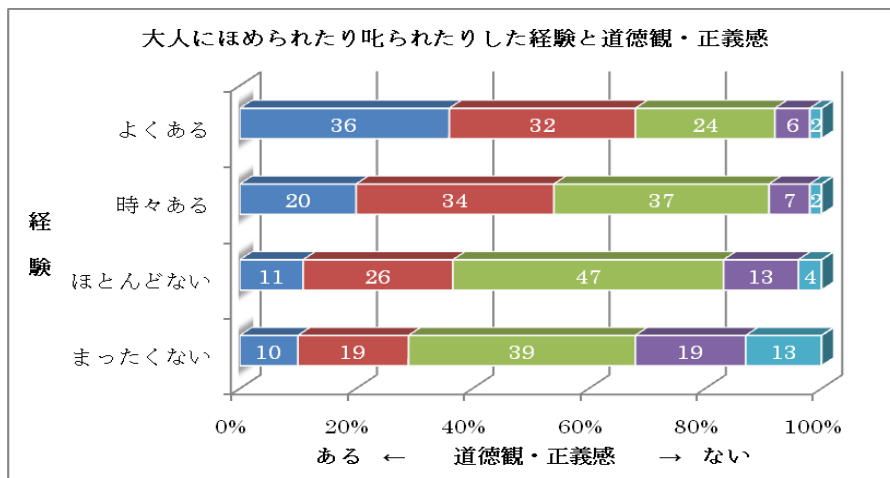


### 『三六九の子育て力』 / 越川禮子 著 (ポプラ社)

狭い土地に多くの人々がひしめきあって暮らしていた江戸の町。だからこそ、人づきあいを円滑にし、子どもの自立を促す「江戸しぐさ」が生まれました。本書では「江戸しぐさ」を取り入れた子育てを紹介しています。子育てに先人たちの知恵を借りてみませんか？ 忙しい合間にも手に取っていただける1冊です。

## 👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？



(独)国立青少年教育振興機構『「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」報告書 平成17年度調査』(平成18年)より

左のデータを見ると、大人にほめられたり、叱られたりした経験が多い小・中学生ほど、道徳観や正義感が育まれているということがわかります。

大人が子どもにきちんと向き合えば、特別なことをしなくとも、心は育まれるものなのです。

## 👍 ひとつこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとつことをご紹介します。



思い出してみてください。食べものの記憶とともに、必ずそこに、人がつながってくるはず。誰と食べたか、どんな状況で食べたかというのがひとつの記憶となって子どもたちに残り、これからの長い人生に消えることなく、延々と続いていくのです。

(秋田大学教育文化学部教授 長沼誠子氏 「食を通した心と体の育ち」より)

「家族で読書」の良さは、子どもの読解力を育てるところではなく、本を話題に、子どもの心を知ることができるということにあります。本という共通の話題をとおして、お互いを理解しあうことができるのです。

(秋田県総合政策課県民読書推進班 富士盛泰子氏 「はじめよう！家族で読書」より)



### 地域の資源を活用する

地域の伝統行事は、異世代の人たちと交流できる貴重な機会です。さまざまな関わりを通して生まれるきずなは、子どもたちの社会性の土台となります。



乳児は 肌を はなすな  
 幼児は 手を はなすな  
 少年は 目を はなすな  
 青年は 心を はなすな

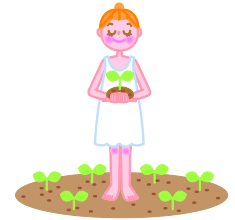
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2012年12月

今年度のテーマは「子どもの自立」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne  
Column

## 子どもの自立

能代市社会教育指導員 高畑 勉

山里にある小規模校、Y小学校。修学旅行は、いつもほかの小規模校と合同でおこなっている。行き先は津軽海峡を越えて函館へ1泊2日。海を見られる、船に乗れる、友だちと泊まれる、夜は枕投げもできるかなと思うと、子どもたちは飛び上がるほどうれしい。

1日目の旅程は好天にも恵まれ、日中は元気いっぱい函館を楽しんだ。あとは、夕食をとり、函館山から市内の夜景を見るだけとなった。

さて、お楽しみの夕食。献立は、なんと「十勝牛のすき焼き」である。子どもたちの顔は、これ以上ないというぐらい、笑顔、笑顔である。やがて、肉の香ばしい匂いが部屋じゅうに立ちこめ、いやがうえにも食欲をそそった。肉は逃げやしないのに、「いただきます」の合図と同時に我を争って食べ始めるのは、いつもの修学旅行の、ほほえましくも楽しい食事風景である。

そんななか、箸も手にとらず、うつむいたままの女の子がいた。

「すき焼き、嫌いなの？」

「いいえ」

「どこか、具合が悪いの？」

「いいえ」

「じゃあ、どうして食べないの？」

「……………」



これは何かあると思って、別室で女の子に事情を聞いた。すると答えて言うことには「卵を割れないんです」とのこと。ほかの学校の子どももいる手前、気恥ずかしさがあったのだろう。この女の子の家族は、いらぬ世話を焼いて、いつも卵を割ってやっていたのだ。

この女の子に限らず「このごろの子どもたちに、できないことが増えてきている」とあちこちで耳にする。例えば「朝、自分で起きられない」「箸をしっかりと使えない」「TPOに合わせて衣服を選べない」「骨のある魚を食べられない」「ワガママを自分で抑えられない」……さて、このまま大人になったらどうするんでしょうと、少し心配だ。

「おつかい」にも同じことが言える。「〇〇ちゃん、晩ごはん、すき焼きにするから、お肉買ってきて」と言われたら、あなたの子どもはできるだろうか？ お母さんから渡されたお金、家族構成、どんなお肉を何グラム買えば良いかななどを素早く計算して買ってきて、はじめて「おつかい」をしたということにならないだろうか。お母さんのメモどおりに買ってばかりいたのでは、ほんとうの「おつかい」とは言えない気がする。

親の役割は、子どもが自立して生きていけるよう導くこと。子どもの将来の自立に役立つことは積極的に取り入れ、そうでないことは、すぐにでも見直してみしてほしい。

## 👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



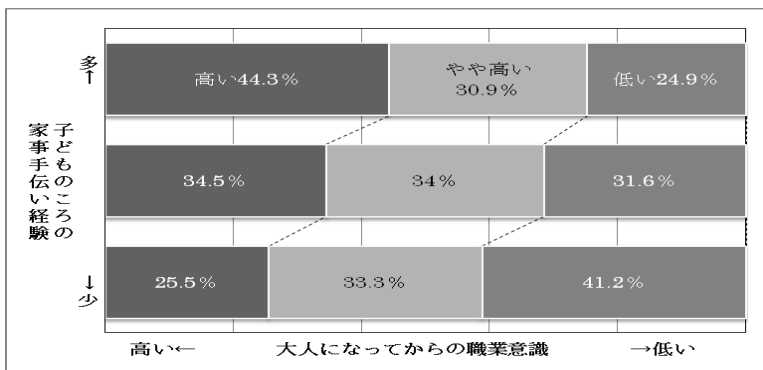
### 辰巳 渚の『子どもを伸ばす』シリーズ / 辰巳 渚 著 (岩崎書店)

大ベストセラー『捨てる! 技術』の著者が示す子育て哲学。どのシリーズを読んでも、やっぱり、家庭での日々のくらしが生きていく基本になるのだなあと感じます。「手を動かすと心が動く」「心が動いたときに、おのずから手が動く」……人の心を豊かにしていくものは何なのか、教えてもらえるシリーズです。

## 👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかもしれません。

### 子どものころの「家事手伝い」経験と「職業意識」の関係



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」(平成22年度)より

左のデータは、20~60代の成人を対象に、子どものころの体験が大人になってからの考え方や行動にどう影響しているのかを調査した結果のうちの一つです。

子どものころ、洗濯物を干したり、ゴミを出したり、掃除をしたり、食器をそろえるなど、家事を手伝った経験のある人ほど、働くことに対して前向きで、社会や人のためになる仕事がしたいと考えていることがわかります。

## 👍 ひとつ@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとつをご紹介します。



親と子の「心のかけ橋」をしっかりと築くこと。何か感情をもって子どもが発信してきたとき、親は解釈せず、必ず子どもに確認をする。これが一方通行にならない方法です。以前は私も口から何か言葉が出ていればコミュニケーションをしていると思っていました。今は、コミュニケーションは一方向的にやることではないなあ、と感じています。

(親業訓練インストラクター 鈴木聡子氏 「子育てを楽しくする3つのコツ」より)

ひとりで悩まない。それが究極の上手な悩み方です。いっしょに悩んでくれる人がいれば、たいへん、どんなことでも大丈夫なんです。家族や友だちのほかに、もう1人、信頼できる大人をみつけてほしい。注意はするが怒らず、励ましとアドバイスをくれて、何をしても態度が変わらない、「また、おいで」と言ってくれる、そんな大人を。

(秋田大学大学院医学系研究科 准教授 佐々木久長氏 「悩んだとき、どうしていますか」より)



### 思い出を子育てに役立てる

子どものころを思い出してみ、一番心に残っていることはなんでしょう？ うれしかったこと、ワクワクしたこと……その感覚を掘りおこして、子どもとの関わりに役立ててみましょう。



乳児は 肌を はなすな  
 幼児は 手を はなすな  
 少年は 目を はなすな  
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp